

水土文化研究部会

第19回研究会

「石積みを事例とした 水土の知 の活かし方」

日時： 令和5年3月8日（水）14:00～16:00

場所： 農業土木会館 2階B会議室

時刻	内容・講演者等
14:00～14:05	開会挨拶
14:05～14:35	講演 「農地の空石積みの現状と価値」 真田 純子（東京工業大学）
14:35～14:50	休憩（15分）
14:50～15:20	講演 「農地石垣の地域性と災害被災傾向」 岡島 賢治（三重大学）
15:20～15:55	パネルディスカッション
15:55～16:00	閉会挨拶

【主催】

農業農村工学会 水土文化研究部会

（担当：農研機構 農村工学研究部門

農地基盤情報研究領域 地域防災グループ

上級研究員 廣瀬裕一）

水土文化研究部会 第19回研究会の開催(第2報)

(技術者継続教育機構認定プログラム申請中)

わが国の水田稲作農耕の基礎には、季節的偏りのある降雨と大陸に比べて比較的制御しやすい小規模の地形単位という特性を有する 水 と 土 があり、水・土の恵みが受け入れやすいように人工物が組み込まれて基盤として形成されている。これを維持・運営するため社会集団や制度、慣行等を伴うこと、言い換えると 人 が関わる特徴がある。この 水・土・人 の複合系を 水土 と定義し、その 水土 の中にある技術や知恵を 水土の知 とする。

今年度は、石積みを通して、水土を見極めることを試みる。コンクリートが普及する以前は、農地の法面や農業水路の水路壁等の強度を確保する等のために、石積みが多用されてきた。石積みは景観形成機能等の農業農村が有する多面的機能の発現に寄与しているが、他方で石積みができる職人の減少やコンクリートと比較した強度や施工の難しさ等から今後の石積みの維持・保全が懸念される。本研究会では、「石積みを事例とした 水土の知 の活かし方」をテーマに石積みの特長を明らかにし、今後の農業農村整備において石積みをどのように扱えば良いかを議論する。

1. テーマ 石積みを事例とした 水土の知 の活かし方
2. 日 時 令和5年3月8日(水) 14:00 - 16:00
3. 場 所 農業土木会館 2階B会議室

オンラインも併用した開催といたします。

4. プログラム

講演

(1) 「農地の空石積みの現状と価値」

東京工業大学 環境・社会理工学院 土木環境工学系 真田 純子

(2) 「農地石垣の地域性と災害被災傾向」

三重大学大学院 生物資源学研究科 岡島 賢治

パネルディスカッション

講演者およびコメンテーター(調整中)

5. 参加料 無料(部会員以外のどなたでも参加いただけます)

6. 申し込み・問い合わせ先

〒765-0053 香川県 善通寺市 生野町 2575 農研機構西日本農業研究センター内

(国開) 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門

農地基盤情報研究領域 地域防災グループ 上級研究員 廣瀬 裕一

Tel 0877-63-8116 Fax 0877-62-1130

Mail kunika@affrc.go.jp

7. 参加申込要領

参加される方のお名前(CPD会員ならば併せて会員番号) 所属機関、連絡がとれるメールアドレスおよび電話番号、会場にいらっしゃるかオンラインでの参加かを記載の上、上記申し込み先に3月6日までに申し込み下さい。